



RI 会長テーマ

2022～2023 年度
大船渡西ロータリークラブ会報

七福人

会 長 古内 一二
副会長 山口 徹
幹 事 今野 義也



= 会長指針 =

お互いを理解しあおう

・ ・ ・ 例 会 記 録 ・ ・ ・

1月第4週例会 2023年1月26日(木)

ソング : 奉仕の理想 ボックス : 36,000円 (報告者 熊谷雅也会員)
お客様紹介 : 水沢東 RC より4名 会長 菅原勝一様 幹事 伊藤正実様 会場監督 渡邊 健様
前会長・会員増強・退会防止委員長 錦山 功様
本日出席率 : 61.11% 前回修正後100% (メンバー16名) (報告者 紀室綾子会員)



水沢東 RC 会長ご挨拶 : 奥州 RC と名称変更の手続き中です。例会の進め方など見学に来ました。
売り切れが続出するという 水沢のソールフード黄金パンの揚げパンを頂戴しました。



熊谷雅也会員に

「2023-2024 年度地区 RLI 委員会副委員長」委嘱状交付

★ 会長の時間 : 古内一二会長



本日は ミーティング報告がありますので 手短にしたいと思います。

まずもって 先日 開催しました新年会に参加していただき有難うございました。コロナが、なかなか収まらない中での、微妙な時期の開催では有りましたが、3年ぶりにできたことは まずは良かったのではないかと考えております。また準備にあたってくれた、親睦会員の皆様大変有難うございました。さて今月も早いもので、1月も、もうわずかとなりましたが、私自身、新年会の挨拶でも言いましたが、2023年はコロナの影響で大変な、新年スタート

となりました。

中国の古典「大学」に「日々新」という一節があります。よく東芝の社長や経団連の会長を務めた土光敏夫氏や松下幸之助氏が好んで引用していましたが、もともとは、古代中国の名君湯王の言葉で、湯王は毎日使う洗面器に「洵に日に新たに、日々に新たに、又日に新たなり」という文字を刻んだことからきているそうです。これは新しい一日を迎えるたびに今日の自分が、昨日より向上できるように、そして明日の自分は、今日の自分より向上が出来るようにと言う、自戒の念を込め彫ったそうです。

新年を迎え、また新たな一年が始まりますが、新たな一年は、新たな一日の積み重ねでもあります。
今年一年、「日々新た」の思いで、一日一日を大切に。そして、日々、自分自身が向上できるよう、改めて
今年目標にし再スタートをきりたいと思っています。

◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

1 2670地区より

- ・ 四国遍路へのご案内が届いています。

日時 2月23日(木) 9時～16時 締め切 1月31日

- ・ 坂出・坂出東 RC 共同のラジオ番組が始まりましたとの連絡あり

毎週月曜日 18時からの30分間 チャンネル 76.1MHz

1月の放送は ポリオ撲滅・おもてなしお遍路ウオークについてなど

いずれも詳細は西クラブ事務局へお問い合わせください。

2 ガバナー事務所より

短期青少年交換について連絡とお願いが届いています。

派遣工程 3月15日出発 29日帰着

派遣前に例会にて激励いただきたい。バナーを5本ほどお渡しいただきたい。

受け入れ工程 6月7日～21日 3～6か所を移動しながら、2～3泊ごとに分担

今後相談させて頂く。

3 大洋学園より クリスマスプレゼントのお礼として子供達のメッセージ付き写真が届いています。

◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆

ミーティング報告：「南原中央 RC との今後の交流について」

★ 第1班 報告 班長紀室 藤丸数子 上野哲 菅野嘉洋 金比呂正 今野義也 齊藤俊明 計7名参加

[1月23日 神菜月 18:30～]



国際奉仕アワードでの船砥会員の資料を取り入れながらの報告とさせて頂きます。2003年に友好クラブとして正式調印をし、2005年に「次世代を担う青少年の交流、交換事業によって国際間の親善平和を理解推進し正しい価値観を備え多様な角度から見分を広められるようお互いを尊重し文化を理解することを目的とする」として第一回青少年交換交流研修事業、架け橋の翼の交流が始まりました。

しかし、ここ数年政治的な問題やコロナウイルスの世界的な蔓延などで友好関係を維持するには様々な課題が出てまいりました。ルールの見直しが必要となってきた時期に入ったのではないのでしょうか。

その例として、第6回架け橋の翼の受け入れであります。研修生が中学生と言うこともあってか警戒心なのか、なかなか馴染んでくれず思うような交流ができないまま終わり、課題を多く残しました。

ただ、高校生との交流がうまくいくのか心配であった中、言葉の壁もなんなくこなし、笑顔で楽しそうな様子には希望も見えました。このことから、今後は生徒同士の交流に重点を置いて良いのではないかと思います。先に述べました研修事業の目的に、もう一度照らし合わせ考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

また、学校側との交流もコロナ禍という事情はありましたが、箕臼になって来たように思います。今後のインターアの向上にも先生方との親睦をより深めていく必要があるのではないのでしょうか。

2003 年先輩方が苦勞して築いてくれた南原中央 RC との友好関係は継続すべき重要なものと認識しておりますが、現会員の中で実際に交流を経験した会員は少なく、まずは会員同士の絆を構築する必要があり、私たちも南原市に訪問すべきではと思います。南原市や会員の方々を知らないままで生徒たちを今後送り出す判断は難しいのではないのでしょうか。

「両クラブで友情をもって架けた橋は全世界を通じ、親善と平和を築く友情の礎としたい」という思いから始まった交流事業、多くの先輩方が携わり歴史を刻んで参りました。当時のお話をいつ聞いても友情の深さにうらやましくなります。これを絶やすわけにはいきません。時代に沿った考え方も取り入れながら、この絆を大切に育んで行きたいと強く思いました。

以上、I 班のミーティング報告でございますが、それぞれ頂いたお話を紀室の主観でまとめたものであり、異議のある方もおられるかと思ひます。ご忌憚なくご指示いただければ校生させていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

★ 第2班 報告 菅原実 班長 志田宏美 松田福美 高木久子 鈴木信男 橋爪文人



新沼福三 藤原太伸 計8名参加 [1月25日ルポゼ18:30~]

歴史上の悲劇を象徴する施設もあるが、カモメパチンコの橋本様ご夫婦にご縁を繋いでいただいたので、今後も交流していきたいという結論でした。以前の学生さんたちの交流はホームステイで、夏まつりには浴衣を着て踊りに参加したり、そのままその浴衣をお土産としてプレゼントした事もあります。お互い若い人達だけに、韓国・日本と言葉は違ってもすぐに仲良くなり楽しく過ごしていたようです。

コロナ等でここ数年個の交流は出来ていないが、今年からでも希望の方を募って、まず韓国に行き大人の方同士の交流を手始めにして、学生さんたちとの交流に繋げて行き、発展させていけたら良いのではないかと！という事になりました。

一方、それまでに、行かれた方と、行っていない方に理解の温度差があると思うので、経験者の方々の体験談をご講話頂ければ参考になり良いのではないかとという話も出ました。

また、その他の話では、お元気になられた橋爪文人さんが初めて大船渡にいらした時のご様子を、映画のスクリーンを再現して見ているようにイメージできるお話の仕方を拝聴し、楽しいひと時でした。さらに、博識な文人さんから一本締め・三本締め・一丁締めや万歳等の基本も教えて頂いたので、私達のチームは、最後に西ロータリーの発展と参加の皆様のご活躍を祈って万歳と三本締めを早速実践し会を閉めました。

★ 第3班 報告 石川恵美子 班長 浜田浩誠 佐々木幹子 船砥俊昭 古内一二 松岡克之 門田崇



三田地大悟 山口徹 計9名参加 [1月23日ときしらず18:30~]

「交流事業をどうするか？」というテーマで話が進んで行きました。

事業は継続したいが仙台空港が使えるようになってからの方が良いのではないかと？という意見がありました。現在は羽田からしか便が出ていないらしく、羽田までの旅費もかかるのでという理由です。

他には、架け橋の翼で来日される青少年についてですが、高校生以上が望ましいという話もありました。

前回来日されたのが中学生だったようですが、年齢から言って交流を考えて行動できるまでには至らず、これも仕方がないことなのだという話もありました。

他には、友好クラブなのだから堅苦しい取り決めをせず、柔軟な対応で良いのでは？という話もありました。(これは、往来についてだと思ひますが)

また、こちらから訪問させて頂く時は、5月の春香祭の時期が良いのではないかとという話もありました。

当日配られました資料は、船砥会員の卓話と、齊藤会員が国際奉仕委員長で南原を訪問した時書かれた会報でした。自宅に帰ってから見て勉強させて頂きました。なので、発表者の私が無知のまま臨みしたので、皆さんのお話の内容を変えてしまっていたらご容赦ください。

年男の新沼福三会員・三田地会員に記念品贈呈

